

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

自立した学習者を育てる読むことの指導

第1学年国語科学習指導案

単元名 すきなところをつたえあおう ～ものがたりの「すき」を見つけよう～

学習材名「たぬきの糸車」(光村図書 1年下)

日 時：令和7年2月21日(金)5校時

児 童：大田区立洗足池小学校 第1学年2組 25名

担任名：大田区立洗足池小学校 教諭 宮脇 げんき

指導者：新宿区立津久戸小学校 主任教諭 福田 晴香

1 単元の目標

- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 [知識及び技能] (1)カ
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 [知識及び技能] (1)ク
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1)エ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等] (1)オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	① 文の中における主語と述語の関係に気付いている。 (1)カ ②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C(1)エ ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 C(1)オ	①進んで場面の様子に着目し、これまでの学習を生かして、登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って、すきなところを伝え合おうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について (児童観)

1年上「やくそく」の学習では、登場人物の言動を押さえながら、3匹の「あおむし」や「木」になりきって役割読みを楽しんだ。すきなところを見つけて、そのわけや物語から想像したことを伝え合うことで、場面の様子を具体的にイメージし、物語を楽しんで音読することができた。1年下「くじらぐも」の学習では、かぎ(「」)の使い方を学習し、読み取ったことを生かして、会話文を工夫して音読することができた。大事な言葉に着目して、場面ごとに人物の行動や場面の展開を確認し、動作化をしながら豊かに想像することで、物語の世界を十分に楽しむことができた。また、会話文の音読の仕方を考える際には、児童自身に「子供たち」「くじらぐも」を選ばせた。ワークシートに登場人物の気持ちを書いたり、音読の工夫を書いたりす

ることで、意欲的に学習に取り組むことができた。

これらの学習と実態を踏まえ、本単元では、自分で読んだ物語の面白さを友達に伝える活動を行う。「すきなところ」を伝え合いながら、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像することで、文章をより理解できるようにしていきたい。また、そうすることで物語がもっとすきになり、自然と感想が伝えたくなるようにしていきたい。そして、「自分が読んだお話を友達に紹介したい」と思い、読書がしたくなるように、以後の読書活動をつなげていきたい。

(2) 学習材について（学習材観）

本作品は、登場人物である「たぬき」のせりふが書かれていないだけでなく、たぬきの気持ちを直接表現している叙述は最後の一文だけである。また、冬の間なたぬきが何をしてきたか、それが何のためなのか、直接は書かれていない。しかし、糸車が「キークルクル」と回るにつれて「くるりくるり」と目玉を回す描写や「じょうずな手つき」で糸を紡ぎ「おかみさんがしていたとおりにたばねて」積み重ねる描写、「ぴよんぴよおどりながら」帰っていく描写などに着目して、楽しく音読したり動作化したりすることで、自然とたぬきの様子や心情を豊かに想像することができる作品である。1年生の児童は、愛らしいたぬきに心を寄せながら読み、そのたぬきを見ることで、たぬきへの思いを変えていくおかみさんの様子にも心寄せることだろう。物語の「すきなところ」と、叙述をもとにしたその理由を伝え合い、「すきなところ」を増やしていくことで、児童が物語の中の言葉と主体的に関わる基盤を作っていく。また、児童が物語の中の言葉と主体的に関わる基盤を作っていく。

(3) 単元について（単元観）

児童が感じる「すき」の理由には、音やリズムの面白さ、表現の面白さ、登場人物の行動の面白さなど、様々な種類がある。そこで本単元では、「いろいろなすき」を音読・動作化・吹き出しを書くことなど、「いろいろな手立てで学ぶ（読む）」こととした。児童それぞれが「すきだな」と感じたところを言葉にして、理由とともに伝えられるようにしていきたい。そして、友達と「すきなところ」を共有することで、物語を想像して読む楽しさを広げていくとともに、「すきなところ」を増やし、「他のお話でも、友達と伝え合いたい。」という思いをもてるようにしていく。その「自然と読みたくなる」気持ちを育てることで、自立した学習者を育てていきたい。

4 読むこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

文学的な文章における言葉による見方とは、物語などのエピソード（出来事）の展開としてのストーリーを理解するだけでなく、人物の会話や地の文における人物の行動や心情の描写や説明がどのように叙述されているか、人物と人物との関係、場面の情景、場面と場面との関係がどのようになっているか、人物像や作品の全体像がどのように形象化されているかに着目することであると考える。文学的な文章における言葉による考え方とは、虚構の形で表現された登場人物の心情や表現の効果などについて、叙述を基に比較したり、類推したり、因果を捉えたり、分類したりすることと考える。そして、文学的な言葉への自覚を高めることが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

読むこと部では、言葉による見方を「読みの観点」、言葉による考え方を「整理・分析の方法」と呼ぶこととする。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

① 学習課題への興味関心を高める。

- ・本単元において児童が身に付けたい力は、「すきなところを見付け、伝える力」と考える。「すきなところ」を見付け、伝えようとする中で、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像できるようにしていく。この力が高まることで、「もっと本を読みたい。」「感想を友達に伝えたい。」という意欲的な自立した学習者の素地を育てていく。
- ・初発の感想を活用して学習課題やめあてを設定し、主体的に学習できるようにする。
- ・初発の感想を掲示することで、みんなの「すき」がたくさんあるお話であることを実感させる。
- ・全文プリントを使ったワークシートを工夫することで、自分の「すき」がたまっていることを実感させる。

② 児童が「読みの観点」と「整理・分析の方法」を活用できるようにする。

読むこと部では、「自立した学習者」を育成するためには、児童の「課題解決に向けて『読みの観点』と『整理・分析の方法』を意識的に活用できる力」を高めることが必要であると捉えている。しかし、この力を高めるためには、児童が自分の学びを客観視できることが大前提となっており、高度な思考力が求められる。そこで、読むこと部では、児童の発達段階を踏まえ、低学年から段階的に「読みの観点」と「整理・分析の方法」を活用する授業を展開する。

【「課題解決に向けて『読みの観点』と『整理・分析の方法』を意識的に活用できる力」の系統性】

	低学年	中学年	高学年
め ぎ す 児 童 の 姿	「本時のめあて」と、「読みを深めるために学級で取り組んだ活動」をつなげて学習を振り返ることができる。	学習課題の解決に向けて自分がどのような読み方をしたかを相手に伝えるために、提示された複数の「読みの観点」や「整理・分析の方法」から、自分が活用したものを選択できる。	学習課題の解決に向けて自分がどのような読み方をしたかを相手に伝えるために、自分が活用した「読みの観点」や「整理・分析の方法」について説明できる。

○教材分析表の工夫
別紙「教材分析表」参照

○教師の支援

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する際、児童は無意識的に「読みの観点」や「整理・分析の方法」を活用して文章を読んでいる。そこで、本単元では、一人読みやグループ交流、全体交流の場面において、児童の記述や発言に対して、教師が「読みの観点」や「整理・分析の方法」を意識した問い返しをする。例えば、「なぜ、たぬきは糸を紡げるようになったのですか。」や「なぜ、たぬきはうれしくてたまらなかったのですか。」等である。低学年の学習から、教師がこのような発問を繰り返すことで、「読みの観点」や「整理・分析の方法」を徐々に意識化していき、中学年へとつなげる。

○振り返りの工夫（読みの足あと）

本単元では、どのように読んだら「すき」を味わえたり、「すき」が増えたりしたのかという観点で「読みの足あと」を作成する。児童は、「たら、たぬきのすきなところを見付けることができた」等の文言に対し、3段階（◎○△）で自己評価する。の部分には、「たぬきの動きを真似し（たら、）」や「たぬきの吹き出しを考え（たら、）」等、読みを深めるために学級で取り組んだ活動を選んで記入できるようにしておく。このように、低学年の段階から、自分の読みを振り返る活動を習慣化させ、中学年へとつなげる。

(2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

①児童一人一人が自分の考えをつくり出す言語活動を設定する。

「たぬきの糸車」で様々な種類の「すき」を様々な方法で味わった上で、自分の選んだ昔話のすきなところを見付け、伝え合う活動を設定する。

- ・様々な種類の「すき」・・・ストーリー（内容）がすき、登場人物（行動）がすき、表現が面白くてすき、音・リズムが面白くてすき。

- ・様々な方法で味わう・・・音読して味わう。動作化して味わう。吹き出しに書いて味わう。劇化して味わう。

② 交流活動の工夫によって、新たな考えの発見につなげる。

【おはなしタイム】・対話的な学びが充実するように、ペアでの「話し合いモデル」を紹介する。

- (ペア交流)
- ・ワークシートを書き終わった児童から、自由にペアやグループを作り、ワークシートをもとに自分の考えを紹介し合う。
 - ・「好きなどころ」を伝え合うだけでなく、「好きな理由」を聞き合い、相手の「好きなどころ」の感想も伝え合う。(言えない場合でも一言感想「いいね。」「すてきだね。」「かっこいいよね。」「おもしろいね。」「ぼくもそうおもったよ。」「おなじだね。」などと言うようにする。(児童が言われたら嬉しい言葉を出させて「クラスの一言感想」を作り掲示しておく。)
 - ・選んだ文や言葉を音読したり動作化したりして、読みを深めたり考えを確かめたりする。
 - ・たくさんの友達と交流させ、多様な考えに触れられるようにする。

【全体交流】・・・出合わなかった友達の考えを紹介し合い、板書で整理することで、新たな発見につなげたり、「読みの観点」と「整理分析の方法」を関連して価値付けたりする。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

①言葉の特徴や使い方を意識できる活動を通して言語感覚を養う。

- ・単元の始めに、「おもしろい」「ふしぎ」と思った言葉を児童から集め、分からない言葉を理解させる。また、登場人物の行動を読み取る際に、「なぜ、どんなところが・・・なのか。」を話し合いながら音読や動作化をすることで、実感を通して言葉の特徴や使い方を意識し、音読できるようにする。

②関連図書を紹介し、読書につなげる。

- ・廊下に「学年文庫」コーナーを設置し、「たぬき」など生き物が登場する昔話や、リズムのよいフレーズのある昔話を紹介する。

(例)「ぶんぶくちやがま」「かちかちやま」「うりひめとあまんじゃく」「したきりすずめ」「ランパンバン」「やまんばとこぞうさん」「やまなしもぎ」「かっぱのすもう」など

- ・「学年文庫」コーナー(教室前廊下)の本を並行読書し、第8時にその中から1冊選んで「感想カード」を書き、感想を伝え合う学習をすることで、「もっと他の本も読んでみたい。」「感想を誰かに伝えたい」という気持ちをもてるようにする。
- ・本単元の学習後、「学年文庫」「学級文庫」に「感想カード」を常備し、学習したことを生かして感想を書いたり、友達の感想を読んだりできるようにする。

6 単元計画(全8時間)

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次 構造と内容の把握	1	1 既習の物語教材を振り返り、単元のゴールを確認する。 ・既習の物語教材では、「どの作品が好きか」「どんなところが好きか」話し合う。 2 教師の範読を聞いて、物語の大体を捉える。 ・いつ(時) ・どこで(場所) ・だれが(登場人物) ・なにをしたか。(出来事)	○教師が物語の好きなどころとそのわけを紹介することで、「自分も伝えたい」という気持ちを喚起する。 ○「たぬきの糸車」でも、「好きなどころを見つけて伝え合いたい」という思いをもてるようにする。 ○題名「たぬきの糸車」からお話を想像させる。 ○挿絵と対応させながら、物語の設定を押さえる。	

	<p>3 すきなところを見付けながら音読し、感想を書いて交流する。</p> <p>①ワークシートを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すきなところに線を引く。 ・初めて読んだ感想を書く。 <p>分からない言葉や疑問を書く。</p> <p>②感想を交流する。</p> <p>4 学習のまとめと次の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○物語のすきなところが「感想交流の観点」となることを伝え、音読の目的を意識させる。</p> <p>○初発の感想を活用して学習計画を立てることで、児童が主体的に学習できるようにする。</p>	
<p>【学習課題】</p> <p>おはなしの すきなところを見つながらよみ、すきなところとわけをみんなにつたえよう。</p>			
2	<p>1 「たぬきの糸車」を読み、物語の大体を捉える。</p> <p>①場面分け</p> <p>②分からない言葉の確認</p> <p>2 学習計画を立て、学習の見通しをもつ。</p> <p>① 初発の感想から、みんなの「すき」を確認し、学習計画を立てる。</p>	<p>○主語と述語の関係に着目させる。</p> <p>○分からない言葉は、意味を伝えたり動作化をしたりして、メージを掴ませる。</p> <p>○みんなが出した「すきなところ」を「いろいろな方法」で味わいながら読み、作品を詳しく読んで「すきなところ」を増やしていくこと伝え、学習計画を立てる。</p>	<p>〔知識・技能①〕</p> <p><u>発言・記述</u></p> <p>・文の中における主語と述語の関係に気付いているかの確認</p>
<p>みんなの「すき」を あじわって、おはなしの「すき」を ふやすけいかくを立てよう。</p>			
	<p>②詳しく読むところ（読みの観点）を確認する。</p> <p>【くわしくよむところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> *ばめんのようす・できごと *とうじょうじんぶつのようなようす こうどう、せいかく *とうじょうじんぶつのきもち <p>3 学習のまとめと次の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○「たぬき」と「おかみさん」の行動・様子を区別するため、前時の「全文プリント」を活用し、たぬき（黄色）とおかみさん（ピンク）の文にサイドラインを引く。</p> <p>○朝読書や図書時間に「学年文庫」コーナーにある本（昔話・動物の出てくる話・音読して楽しい話）を読むことを薦める。</p>	
3	<p>1 本時で扱う「すき」を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p style="text-align: center;">たぬきの すきなところを見つ、つたえあおう。</p> <p>2 お話前半の音読をしながら、自分の考えをもつ。</p>	<p>○学習課題について考え、「すき」を伝え合うことを確認する。</p>	

	<p>①音読をする。</p> <p>②たぬきの様子や行動で、自分が「すきなだ」と思うところに線を引く。</p> <p>③すきなところと理由を伝え合う。(ペア交流)</p> <p>④ワークシートの下段に、自分の考え(すきな理由)や気付いたことを書き込む。</p> <p>3 「すきなところ」と理由を全体で共有する。 ・「やぶれしょうじの あなから、二つのくりくりした目玉が、こちらをのぞいていました。」 →様子がかわいい。楽しい。 ・糸車がキークルクルとまわるにつれて、二つの目玉も、くるりくるりと…。」 →様子がかわいい。まねしているのが面白い。 ・「それからというもの、…。」 →おかみさんが気付いていることを知らないところが、不思議。 など</p> <p>4 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。 ・「よみのあしあと」を書く。 ・次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○たぬきが言ったこと・したことを児童に音読させ、教師がそれ以外を音読することで、たぬきの言葉や行動に着目させる。</p> <p>○「すきなところ」の理由を全体で共有しながら、叙述から読み取ったことを確認し、お話が分かる楽しさを味わわせる。</p> <p>○たぬきがその行動をする理由も考えさせる。</p> <p>○「やってみて。」と声をかけ、たぬきの様子をまねさせて、かわいさや楽しさを実感させる。</p> <p>○たぬきは、おかみさんが気付いていることを知っていたか、意見を交流させる。</p> <p>○動作化することで、具体的なイメージを広げさせる。</p> <p>○様々な「すき」を、叙述に着目して考えたり、動作化して味わったりしたことを振り返らせる。</p>
<p>4 本時</p>	<p>1 本時で扱う「すき」を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> たぬきの すきなところを見つけ、つたえあおう。 </div> <p>2 お話後半の音読をしながら、自分の考えをもつ。</p> <p>①音読をする。</p> <p>②たぬきの様子や行動で、自分が「すきなだ」と思うところに線を引く。</p> <p>③すきなところと理由を伝え合う。(ペア交流)</p> <p>④ワークシートの下段に、自分の考え(すきな理由)や気付いたことを書き込む。</p> <p>3 「すきなところ」と理由を全体</p>	<p>○学習課題について考え、「すき」を伝え合うことを確認する。</p> <p>○たぬきが言ったこと・したことを児童に音読させ、教師がそれ以外を音読することで、たぬきの言葉や行動に着目させる。</p>

[思考・判断・表現①]
 ワークシート・発言・音読
 ・たぬきの様子や行動を具体的に想像することで、すきなところとそのわけを伝え合っているかの確認

<p>で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつかのたぬきが、じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのでした。」 →前はまねをしていただけなのに、今度は本当に糸をつむいでいるのがかわいい。 ・「たぬきは、つむぎおわると、こんどはおかみさんがしていたとおりに、…」 →ちゃんとおぼえていたのが、かわいい。 ・「うれしくてたまらないというように、びよんびよこおどりながら…」 →「びよんびよこ」おどりながらよろこんでいるところが、かわいい。 <p>4 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よみのあしあと」を書く。 ・次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「すきなところ」の理由を全体で共有しながら、叙述から読み取ったことを確認し、お話が分かる楽しさを味わわせる。 ○たぬきがその行動をする理由も考えさせる。 ○2の場面の様子・出来事と比べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○なぜ「ちゃんと覚えていた」のか、意見を交流させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○「やってみて。」と声をかけ、たぬきの様子をまねさせて、かわいさを実感させる。 ○動作化して音読することで、具体的なイメージを広げさせる。 ○様々な「すき」を、叙述に着目して考えたり、動作化して味わったりしたことを振り返らせる。
<p>5</p> <p>1 本時で扱う「すき」を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おかみさんの すきなところを 見つけ、つたえあおう。</p> </div> <p>2 全文を音読しながら、自分の考えをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①音読をする。 ②おかみさんの様子や行動で、自分が「すきだな」と思うところに線を引く。 ③すきな場面の挿絵（ワークシート）を選び、おかみさんの吹き出しを書く。 ④すきなところと理由、吹き出しを友達と交流する。 <p>3 「すきなところ」と理由、吹き出しを全体で共有する。</p> <p>(例)【2の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「くりくりした目がかわいい 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題について考え、「すき」を伝え合うことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ○おかみさんの言ったこと・したことを児童に音読させ、教師がそれ以外を音読することで、おかみさんの言葉や行動に着目させる。 ○おかみさんの気持ちを想像させるために、吹き出しを書かせる。 ○ワークシートが書けた児童から、自由にペアやグループで交流させる。 ○児童が「すきだな」と思う

<p>な。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一生懸命まねしていて、かわいいな。」 ・「私が気付いているとは思っていないんだね。気付かないふりをしよう。」 <p>【3の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かわいそうに、いたいだろう。」 ・「だんなさんには、黙っていてあげるよ。はよ、お逃げ。」 ・「こんどは、気を付けるんだよ。」 <p>【5の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ありがたう。たくさん糸を紡いでくれて、助かったよ。」 ・「いつかの恩返しかね。」 ・「やっぱり、かわいいな。」 <p>など</p> <p>4 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よみのあしあと」を書く。 ・次時の学習内容を確認する。 	<p>ところは、たぬきも「すきだな」と思うところであり、おかみさんの人物像が表れたところでもあることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師がきこり役になり、おかみさん役の児童に対し、「あのいたずらたぬきのことを、なぜかわいいなんて言うんだい？」 「せっかくわなにかかったいたずらたぬきを、どうしてにがしたんだい？」などと問いかけることで、おかみさんの変化について理解を深めさせる。 ○吹き出しを考えたり、劇化したりすることで、具体的にイメージを広げさせる。 ○様々な「すき」を、叙述に着目して考えたり、吹き出しを考えて劇化して味わったりしたことを振り返らせる。
--	--

<p>6 1 本時で扱う「すき」を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div data-bbox="325 1256 1062 1317" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>おとやリズムの すきなところを見つけ、つたえあおう。</p> </div> <p>2 全文を音読しながら、自分の考えをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①音読をする。 ②「音やリズムが楽しい」と思うところに線を引く。 ③すきなところと理由を伝え合う。(ペア交流) ④ワークシートの下段に、自分の考え(すきな理由)や気付いたことを書き込む。 <p>3 「すきなところ」と理由を全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キーカラカラ キークルクル」→音が面白い。 ・「目玉もくるりくるりと…」→たぬきの目が回るようすが思い浮かんで、楽しい。 ・「キャーというさけびごえ…」→叫び声が面白い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題について考え、「すき」を伝え合うことを確認する。 ○自分のペースでそれぞれ音読をさせる。 ○音読の仕方の工夫を問いかけ、書き込ませる。 ○<u>擬音語</u>や<u>擬態語</u>、<u>繰り返し</u>の<u>言い方</u>に着目させる。
--	--

〔知識・技能②〕

ワークシート・発言・音読

・場面の様子や登場人物の言動、様子などを表す語句について着目し、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しているかの確認

	<p>・「びよんびよこおどりながら」 →音がかわいい。たぬきのかわいさが表れている。</p> <p>など</p> <p>4 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。 ・「よみのあしあと」を書く。 ・次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○出てきたところや場面をどんなふうにと読むと楽しいか問いかけ、みんなで音読させる。</p> <p>○様々な「すき」を、叙述に着目して考えたり、音読の工夫を考えて味わったりしたことを振り返らせる。</p>		
第三次 考えの形成	7	<p>1 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「たぬきの糸車」のいちばん すきなところを見つけ、つたえあおう。</div> <p>2 全文を音読し、一番すきなところを選ぶ。</p> <p>3 「感想カード」に、「すきなところ」と「そのわけ」を書く。</p> <p>4 書き終わった児童から、自由にペアを組み、「感想カード」を見せながら、ペア発表をする。</p> <p>5 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。 ・「よみのあしあと」を書く。 ・次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○学習課題について考え、改めてすきなところを伝え合うことを確認する。</p> <p>○迷っている児童には、前時までに選んだ「すきなところ」(ワークシートの本文の青線・緑線)の中から選ぶように声をかける。</p> <p>○1時間目に選んだところと変えてもよいこととする。</p> <p>○友達の発表を聞いて、いいなと思ったことを伝え合わせる。</p> <p>○単元の学習を生かして「感想カード」を書いて、伝え合うことができたか、振り返らせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔思考・判断・表現②〕 発言・音読・よみのあしあと ・文章を読んで、感じたことや分かったことを共有しているかの確認</p> </div>
	8	<p>1 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">じぶんのえらんだほんの すきなところを見つけ、つたえあおう。</div> <p>2 「感想カード」に、自分で選んだ本の「すきなところ」と「そのわけ」を書く。</p> <p>3 書き終わった児童から、自由にペアを組み、「感想カード」を見せながら、ペア交流をする。</p> <p>4 単元を振り返る。 ・様々な種類の「すき」があった。 ・「すきなところ」を伝え合うと、お話がよく分かるようになった。 ・他の本も紹介したくなった。</p>	<p>○本時までに並行読書をし、「友達にすきなところ伝えたい本」を選んでおく。</p> <p>○「たぬきの糸車」で児童から出た「すきなところ」と「そのわけ」を掲示し、参考にさせる。</p> <p>○友達の発表を聞いて、「いいな」と思ったことを伝え合わせる。</p> <p>○これからも本を読んで「すきなところ」を伝えたいと思ったら、「すきなところカード」を書くことを知る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔主体的に学ぶ態度①〕 ワークシート・発言・観察 ・これまでの学習を生かして、登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って、すきなところを伝え合おうとしているかの確認</p> </div>

7 本時の学習 (4/8)

(1) 本時のねらい

たぬきの様子や行動を具体的に想像することで、すきなところやそのわけを伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1 学習課題を確認し、前時を振り返る。 ①学習課題を確認する。	○本時も、すきなところとそのわけを伝え合うことで、お話の「すき」を増やしていくことを確認させる。	
【学習課題】おはなしの すきなところを 見つけながら よみ、すきなところと わけをみんなにつたえよう。		
②前時の振り返りをする。 ・前時に出了、お話前半の「たぬきのすきなところ」を確認する。 ・動作化して味わったことを思い出す。	○前時に共有したことを紙板書で掲示することで、短時間で振り返りができるようにする。	
たぬきの すきなところを 見つけ、つたえあおう。		
2 お話後半の音読をし、自分の考えをもつ。 ①音読をする。(お話の後半) ② たぬきの様子や行動で、自分が「すきだな」と思うところに青線を引く。 ③すきなところと理由を友達と伝え合う。(ペア交流「おはなしタイム」) ・ワークシートを書き終わった児童から、自由にペアを作り様々な友達と交流する。	○たぬきが言ったこと・したことを児童に音読させ、教師がそれ以外を音読することで、たぬきの言葉や行動に着目させる。 ○自分が書いたものを読み合うだけの交流とならないように、理由を書く前にペア交流をさせる。 ○相手のすきなところにも感想を言うことで、一方的な交流ではなく双方向の交流ができるようにする。 ○分からないときは、「それは、どういうこと?」「～ということ?」と問い返して確かめさせる。 ○「やってみて」と声をかけて、音読や動作化を促す。	
④ワークシートの下段に、自分の考え(すきな理由)や友達と交流して気付いたことを書き込む。	○ワークシートの上段に本文を載せ、サイドラインを引いたところについて、下段に自分の考えを書けるようにする。	
【くわしく読むところ(読みの観点)】 *場面の様子・出来事 *たぬきの様子・行動(何をしたか) *たぬきの行動の理由 *たぬきの性格・気持ち	【自分の考え】 ・どんなところがすきか。 ・なぜすきか。 ・たぬきの行動の理由。	
	○ペア交流後に増えた「すきな	〔思考・判断・表現①〕 ワークシート・発言・音読 ・たぬきの様子や行動を具体的に想像することで、すきなところとそのわけを伝え合っているかの確認 〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕 ・すきなところとわけを伝えるために、たぬきの様子や行動の叙述に着目しながら、行動の理由を自分の体験から類推している。

3 「すきなところ」と理由を全体で共有する。

・「いつかのたぬきが、じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのです。」

→たぬきが糸を紡ぐ姿がかわいい。

→前はまねをしていただけなのに、今度は本当に糸を紡いでいるのが、すごい。

・「たぬきは、つおぎおわると、こんどはおかみさんがしていたとおりに、…」

→おかみさんのまねをしていて、かわいい。

→覚えてしまうくらい、たくさん見てまねをしていたことが分かって、もったぬきがすきになった。

・「うれしくてたまらない いうように、びよんびよこおどりながら…」

→喜んでいるところが、かわいい。

→冬の間はずっと独りだったので、「おかみさんに見てもらえた。」と喜んでいるところがかわいかった。

→「おかみさんに助けてもらった時の恩返しができた」と喜んでいるところがいい。

→たぬきは「おかみさんが喜んでくれた」と感じて、嬉しかったと思う。

→「びよんびよこ」という言葉が、かわいい。

4 本時のめあてについて振り返り、次時の学習内容を確認する。

・「よみのあしあと」を書く。

①「たぬきのすきなところを見つけることができた。」「ともだちとすきなところをつたえあうことができた。」を自己評価する。(◎○△)

②どうやったらできたか、記入する。

・次時は「おかみさんのすきなところ」を交流することを確認する。

ところ」に、緑線を引かせる。

○「すきなところ」の理由を全体で共有しながら、叙述から読み取ったことを確認し、お話が分かる楽しさを味わわせる。

○2の場面の様子・出来事と比べ、違いに気付かせる。

○「なぜ糸がつむげるようになったのか」「なぜおかみさんがしていたとおりにできるのか」など行動の理由について意見を交流させる。

○「やってみて。」と声をかけ、たぬきの様子をまねさせて、かわいさを実感させる。

○「なぜうれしくて、たまらなかったのか」というたぬきの気持ちを意見交流させる。

【着目させる言葉】

・びよこんど とび下りる

・うれしくてたまらない

・びよんびよこ おどりながら

○最後の場面について、「おかみさんに見付かって、びっくりして、慌てて逃げたのではないか。」と揺さぶる発問をして、意見交流させる。

○動作化して音読することで、具体的なイメージを広げさせる。

○様々な「すき」を、叙述に着目して考えたり、動作化して味わったりしたことを振り返らせる。

○「どうやったらできたか」は、「学びかた(やってみたら、できたよ)」を参考にして書かせる。

(3) 板書計画

二月二十一日（金）

みんなの「すき」をあじわって、おはなしの「すき」をいやそう。

④ 「たぬきの糸車」きし なみ さく

たぬきの すきなどところを見つけ、つたえあおう。

たぬきのようすが、かわいい。

たすけてくれたから、おんがえし。

いつかのたぬきが、じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのです。

たぬきは、つむぎおわる
と、こんどはおかみさんがしていただとおりに……

よみのあしあと

「たぬきのしたことをよく見て、かんがえたら」

「たぬきのうごきをまねしたら」

・たぬきのすきなどところを見つけることができた。

・ともだちと すきなどところをつたえあうことができた。

・糸車をつむぐすがたがかわいい。

・まえはまねをしていたけなのに、ほんとうに糸をつむいでいるのが、すごい。

・おかみさんのまねをしていて、かわいい。

・おぼえてしまいうらい、たくさん見てまねをしていた。

↓もっとすきに

・よろこんでいるところが、かわいい。

・おかみさんに見てもらえた。よろこんくれた。うれしい。

・おんがえしができた。やくにたった。

・ことばが、かわいい。

8 資料 ①「よみのあしあと」と記入例

学びかた（やってみたら、できた）

おかみさんの
いったことを
よく見て
かんがえたら

たぬきのしたこと
をよく見て、
かんがえたら

おかみさんの
ふきだしを
かんがえたら

たぬきのうごきを
まねしたら

さいしよのたぬきと
さいごのたぬきを
くらべたら

よみのあしあと

一年くみ()

さくひんめい	「たぬきの糸車」	ちくしや	きしなみ
学しゅうかだい	おはなしの すきなところを見つげながら よみ、 すきなところと わけを みんなに つたえよう。		

日づけ	めあて	ふりかえり
月 日	おはなしせんは んの「たぬき」の すきなところを 見つけ、つたえ あおう。	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> たぬきの すきなところを見つげることができた。() ともだちと すきなところを つたえあうことができた。()
月 日	おはなしこうは んの「たぬき」の すきなところを 見つけ、つたえ あおう。	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> たぬきの すきなところを見つげることができた。() ともだちと すきなところを つたえあうことができた。()
月 日	「おかみさん」 の すきなところ を見つけ、 つたえあおう。	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> おかみさんの すきなところを見つげることができた。() ともだちと すきなところを つたえあうことができた。()
月 日	「おと」や「リス ム」のすきなと ころを見つ け、つたえあお う。	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> 「おと」や「リスム」がたのしみを見つげることができた。() ともだちと すきなところを つたえあうことができた。()
月 日	「たぬきの糸車」 の ばんすきな ところを見つ け、つたえあお う。	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> えらんだほんの すきなところを見つげることができた。() ともだちと すきなところを つたえあうことができた。()

(よくできた⇒◎ できた⇒○ あまりできなかった⇒△)

②ペア交流「おはなしタイム」のモデル

C1：やろう。

C2：いいよ、やろう。

C1：ぼくがすきなところは、・・・だよ。

C2：どうして、そこがすきななの？

C1：どうしてか言うとなね。・・・だから。

C2：いいね。私も・・・と思うよ。

私はね、・・・がすきなんだ。

C1：なんで、すきななの？

C2：だって・・・だから。

C1：そうなんだ。私もそう思うよ。

C2：聞いてくれて、ありがとう。

C1：ありがとう。